



～絵本紹介～

3歳以上児の各クラスの先生のおすすめ絵本を紹介します。



山下 夏生先生

題名『はじめてのおつかい』 作:筒井頼子 絵:林 明子

出版社:こどものとも

この絵本に出会ったのは、主人公のみいちゃんと同じ5歳の時で、さらに話の中に出てくる赤ちゃんと同じく妹がちょうど生まれた時でしたので、この話を自分に置き換えて読んでいました。家に帰ってくるまでの様々なできごとにドキドキしたりいつも母と行っているお買い物を想像しながら「一人で行ってどんな感じなんだろう」とワクワクしたりしていました。

一番好きな場面は冒頭のお母さんにおつかいを頼まれるところです。ドキドキするけれど妹のために行かなくてはと今でも当時の気持ちを思い出します。

ちなみに私のはじめてのおつかいは小学校低学年で、母に書いてもらったメモを握りしめて某ハンバーガー屋さんに行きました。



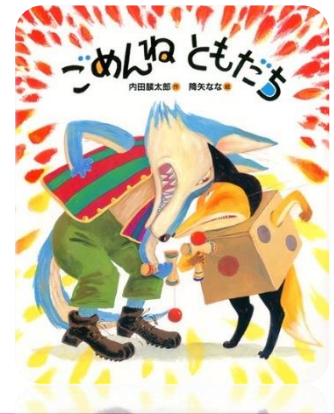
伊藤 楓先生

題名『ごめんね。ともだち』 作:内田麟太郎 絵:降矢なな

出版社:偕成社

オオカミはキツネといろんなゲームをして遊んでいましたが、なかなかゲームに勝つことができず、それをキツネのせいにして大喧嘩!!本当はオオカミが悪いとわかっている「ごめんね。」という一言が心の中なら言えるのに直接伝えることが難しいという話です。

友達との関わりが広がり、一緒に遊ぶ中で友達と言いつつ意地を張ったり相手が悲しむことを言うてしまうことがあり、後悔している場面をよく見かけます。そんな時、この絵本を読んで改めて、この時にはどうしたら良かったのか?相手の気持ちにも気づき、考えられる絵本です。



土肥 美尚子先生

題名『おおきくなるっていうことは』 文:中川ひろたか 絵:村上康成

出版社:童心社

おおきくなるっていうことは、、、とおおきくなったらできるようになることが次々と書かれています。自分と照らし合わせながら嬉しくなったり恥ずかしくなったりしてきている子どもたちの姿が印象的です。

お誕生日の時などに読んであげると、とてもぴったりだと思います。おすすめです!!

